

東日本大震災から13年

3.11川柳コンテスト

結果発表

一般の部

小・中・高・大学生の部

最優秀賞

ご近所と 日頃の挨拶
命綱 けんちゃん

最優秀賞

伝えなさや あの日の記憶
最後の世代 ミヤガワ

優秀賞

- ・婆ちゃんは 防災マップが 散歩道 イブキング
- ・忘災に しないさせない 語り継ぐ 匿名
- ・語り部と なって救える 命の灯 もふもふ

優秀賞

- ・もう一度 あの海を見て 笑いたい 奥村 夏帆
- ・ただいまを 言える幸せ 噛み締める 鈴木 陽菜
- ・次世代に 伝えるこの日 3.11 大村 航士
(佐賀市立城北中学校)

Civic Force
特別賞

東北に 灯るひかりが 照らす能登 桃李

さまざまな想いを言葉にのせて届けたい

2011年3月11日の東日本大震災から13年。被災した多くの地域では街が整備され新たな生活が定着しつつありますが、一方で原発事故による帰還困難区域がまだ残るなど復興は未だ途上にあります。また、今年は元日から能登半島で大きな地震が発生し、多くの人々が避難生活を強いられています。

被災したひと、避難先にいるひと、支援したひと、被災地を想っているひと……さまざまな想いを言葉にのせて届けたい。そんな想いで、Civic Forceでは2月21日～3月24日、災害や防

災・減災をテーマにした「川柳コンテスト」を開催しました。

わずか1カ月の間に1,361人の方から3,155作品もの川柳が寄せられ、厳正なる審査の結果、2部門各最優秀賞1作品、優秀賞3作品、シビックフォース特別賞1作品、入賞23作品、計32作品を選出いたしましたので発表いたします。たくさんのご応募ありがとうございました。

その他の受賞作品はこちら



あの日の教訓を未来へつなげていくために

2011年3月11日の東日本大震災から13年。各地で災害が相次ぐ中、Civic Forceの「NPOパートナー協働事業」では被災した地域の経験や教訓を他地域や後世に伝え、次の災害に備える社会の実現を目指す「伝承」の取り組みを応援しています。

NEW

宮城 岩手 防災きずな学園 釜石と鎌倉の高校生・大学生が発信



◀カードゲーム「防災ぼうずめくり」を発表



▶東日本大震災の被害について語る釜石の高校生

東日本大震災で被災した岩手県釜石高校の有志団体「夢団」と、神奈川県鎌倉の防災チーム「玄海(Genkai)」を中心としたチーム「防災きずな学園」は、震災を経験していない世代でも地域を超えて防災意識の向上に貢献しようとさまざまな取り組みを続けています。3月9日に宮城県で開催された「仙台防災未来フォーラム 2024」では、共同開発中のオリジナルカードゲームを披露し、楽しみながら防災について考える大切さを伝えました。また翌10日、釜石市鶴住居スタジアムで開催されたラグビー復興祈念試合に合わせて、会場でかたりべ活動を実施。「震災の記憶がなくても家族の記憶を語り継がなければ」と語り部デビューを果たした高校生の話に熱心に耳を傾ける人の姿がありました。

福島 富岡町3.11を語る会(第2期) 世代や地域を超えてかたりべを育てる



「若者たちの参加が福島復興のカギになる」と話す青木淑子代表

地震と津波、原発事故という複合災害によって失われた人々のつながりを取り戻し、新たなコミュニティの再生を目指す、NPO法人富岡町3.11を語る会。2022年からパートナーとして連携してきましたが、2023年12月から第2期事業がスタートしました。5月から浜通り、会津、中通りの3カ所、福島の実況や課題を伝える「語り人(かたりべ)」育成講座を実施し、世代や地域を超えた仲間を増やしていく計画です。また、昨年富岡町で実施した「伝承祭」を他の3地域でも開催し、福島県教育委員会と連携して高校生のかたりべ育成にも力を入れています。

岩手 りくカフェ(第2期) 高校生が開発したレシピでお弁当



タンパク質豊富な肉や旬の野菜が入った栄養満点のお弁当

岩手県陸前高田市で、被災により分断・喪失したコミュニティの再生を目指すNPO法人りくカフェは、人々の健康づくりを支援する活動の一環として、将来を担う若い世代の“生きる力”を育む取り組みを続けています。今年2月には高田高校でレシピコンテストを実施し、入賞したレシピでつくったお弁当を3回にわたって販売。「食べ応えがあるのにヘルシーでうれしい」と評判で、メニューを考案した生徒の中には「将来は食にまつわる仕事がしたい」と意欲を示す人もいます。



Civic Force独自の復旧・復興支援プログラム。これまでに日本全国で100以上の団体と連携

4市町で「NPOパートナー協働事業」を実施中

能登半島地震の発生から3カ月以上が経ちました。Civic Forceは企業やNPOと連携しながら、被災した石川県の奥能登地域などへの物資支援を続けています。また現在、以下の4団体との「NPOパートナー協働事業」が進行中です。

金沢市 珠洲市 輪島市 能登町

北陸学院大学被災地支援センター 人手不足を救う学生ボランティア

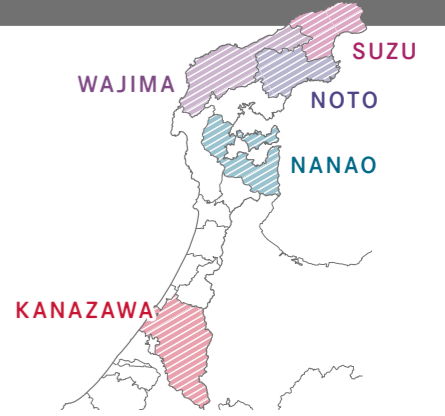


被災した地域の人手不足が大きな課題となる中、石川県金沢市にある北陸学院大学被災地支援センターでは、3月から学生ボランティアを被災地に派遣し、避難所や被災者の自宅などの清掃、仮設住宅でのサロン、金沢近辺での二次避難者向けサロンなどさまざまな活動を続け、全国の大学の学生派遣のハブとしての機能も果たしています。パートナー協働事業では、拠点整備や学生派遣にかかる交通費、ボランティア活動に必要な資機材の購入費用などをサポートすることで、被災した地域の復旧・復興を後押ししています。

七尾市 被災地NGO協働センター 足湯で少しでも前を向けるように



阪神淡路大震災の経験を生かして被災地の支援活動を続ける被災地NGO協働センターは、一時50人以上が避難していた七尾市中島地区のコミュニティセンターで、避難所運営のサポートや物資支援、家屋の片付けや清掃などの活動を続けています。2月からは兵庫県防災士会と連携して「足湯隊」を結成。あたたかいお湯に足をつけて手をマッサージしながら代謝の活性化を図るとともに、1対1の会話を通じて、被災者の「つぶやき」を拾う取り組みを続けています。



金沢市 「小さなCove」プロジェクト 避難者向けの居場所づくり



珠洲市で被災し、金沢に避難中の「Cafe Cove」の店主らが、避難者向けの居場所づくりを開始。避難者だけでなく金沢に暮らす人も混ざり合い、おいしい食事を楽しみながら避難生活で抱える不安や悩みを共有し、生活再建を考える活力になっています。2月に実施したプレ企画では「震災後久々にみんなの笑顔を見た」「日常の時間を取り戻せた」といった声が寄せられました。孤立する避難者とつながるため、常設型だけでなく、イベントを通じた「出張小さなcove」も開く予定です。

珠洲市 石巻市 オンライン交流会 「珠洲と石巻をつなぐ会」を開催

能登半島地震発生から1カ月半後の2月17日、オンライン交流会「珠洲と石巻を繋ぐ会 vol.1」を開催しました。石川県珠洲市内外で避難生活を続ける人と東日本大震災を経験した宮城県石巻市在住者など約20人が参加し、石巻在住のCivic Forceスタッフも東日本大震災の支援経験などをお話しました。



共益投資基金JAPAN 報告書2023公表

Civic Forceへの寄付金を原資に2011年に設立された一般財団法人共益投資基金JAPAN(前・東北共益投資基金)の年次報告書が公開されました。被災した地域の経済復興を支えるため、「共益投資」の概念を生み出し、これまでに東北で14案件、熊本で3件の支援を展開し、現在は能登での調査を実施中。

2023年度の活動報告書はこちら



「Good Links」で支援物資 公開中 GoodLinks

Civic Forceが運営するマッチングプラットフォーム「Good Links」ではオンライン上で支援物資を公開中です。3月は能登半島地震の被災地で活動する2団体に、給水袋や子ども用ブーツ、ボックスティッシュなどを提供。障害者や不登校の子どもたちへの支援、ペット支援やまちづくりに取り組む団体などに活用されています。

※Good Linksは災害支援の分野で継続的に活動を行っている非営利団体がご利用いただけます。被災地で必要な物を登録する「リクエスト(ほしい物)登録」もご利用いただけます。詳しくは、事務局までお問い合わせください。gl@civic-force.org



Topics

営業を再開し地域の人々に無料開放している珠洲市の銭湯「あみだ湯」に空気清浄機3台と歯ブラシなどを提供しました。Civic Forceはあみだ湯のように地域の人々を支える皆さんをサポートしています。

選手会ファンド お礼とご報告



Civic Forceと日本プロ野球選手会が共同で運営する「日本プロ野球選手会災害支援基金(通称:選手会ファンド)」では、2023年12月7日から2024年1月31日までクラウドファンディングを実施し、2,474,000円のご支援をいただきました。また、12月から1月まで4回にわたって実施したチャリティオークションでは600万円以上のご支援をいただきました。皆様からのご支援は災害支援活動に役立っています。

佐賀で物資配付会を実施

3月21日、佐賀県佐賀女子短期大学のセントラル倉庫で、Good Links加盟団体向けの物資配付会を実施しました。子どもの居場所づくりやひとり親世帯の支援をしている6団体が参加し、肌着や靴下、カセットコンロなどを配りました。



中学校で能登支援の活動を報告

佐賀県の嬉野市立吉田中学校から能登半島地震支援のために集めた募金を寄付いただき、3月15日、中学生たちに被災地での支援活動の状況についてお話ししました。



連載「災害に備える」

ホームページの連載「災害に備える」の最新回のテーマは「被災後の職場におけるメンタルケア」。能登半島地震で被災しながら働く皆さんへ、2011年の東日本大震災で被災したCivic Forceのスタッフから、今こそ必要な“心のケア”の大切さについてお伝えしています。

こちらから



メディア情報

01.29 **新聞** 産経新聞
「在宅避難2,600人超 被災自治体、人手不足で把握進まず」

02.05 **新聞** 朝日新聞
「能登半島地震、広がる被災者支援の募金」

もっと気軽に社会貢献!

活動全般

NEW



Yahoo!「買って応援」スタート!

Yahoo!ショッピングで購入した商品を、物資を必要とする支援団体に寄贈できる「買って応援」のCivic Forceページが掲載されました。

- バリューブックス「チャリボン」
- エンパワー「買取大吉モノ募金」
- レジーナクリニック「SDGsプラン」
- ブリリアンスプラス「シークレットストーン」
- ふるさと納税(佐賀県NPO支援)
- サンナップ(アスクル限定販売)
- 「フェーズフリー認証 紙コップ メジャーメント」
- 本棚お助け隊「古本チャリティ募金」
- ECナビ「スマイルプロジェクト」
- シーズン合同会社「チャリティーブランドBeMee」

ジュエリーで
寄付!



東日本大震災

- Yahoo!ネット募金

寄付付き商品・サービスなど
様々な方法で
気軽にご支援いただけます!



1日33円からできること

次の大規模災害に向けて平時から備えておくために皆様の力が必要です。マンスリーサポーターとして毎月定額(1000円単位)のご寄付で支えてください(クレジットカードのみ)。また、団体活動全般へのご寄付は以下の口座で受け付けています。

- 銀行：三井住友銀行 青山支店 普通 6953964
- ゆうちょ：00140-6-361805
上記いずれも口座名義は「シヤ」シビックフォース
- クレジットカード:HP「オンライン募金」より ▶



SNSで最新情報をお届けします



ニュースレターのバックナンバーはこちら▼

<https://www.civic-force.org/news/newsletter/>

メールマガジン「被災地の今を知る」登録▼

<https://www.civic-force.org/mailmagazine/index.html>